

■徳川慶喜 江戸幕府15代(最後の)将軍。生まれからは思わぬ将軍になるも、その生まれから幕府の終焉を引き受けた。とくがわよしのぶ

大塩平八郎乱1837＝ 水戸徳川家の江戸藩邸で、烈公_徳川斉昭の七男に生まれ、七郎麻呂と名づけられる。

適塾オプン・ 1838＝ 1歳： 水戸に行き、以後、水戸で育てられる。

天保改革弾圧1842＝ 5歳： _御三家とはいいいながら、父斉昭が、紀州系になっている幕府に、様々な注文をつけることから、敵対的関係になるとともに、母が、有栖川織仁親王の王女(未婚)登美宮吉子であったことから、朝廷への親近感をもって、聡明に育ち、

立派な書で、「楽水」と記したように、すでに、天変自在な生き方を好む性格が表れている。

阿部正弘首座1845＝ 8歳： 孝明天皇・・・1846＝ 9歳：

・・・1847＝10歳： _自らの実子の家祥(家定)が無能であった12代将軍家慶に見込まれて、紀州系御三卿の京都一橋家の継養子となつて家督を相続。元服し、名を慶喜と改める。一橋家には家臣も城も無く、父の配慮で、藤田東湖、川路聖謨らの推薦で、有能な平岡円四郎が小姓となり、以後、彼を参謀にしてことに対処していく。

・・・1848＝11歳： 松平慶永、島津斉彬と初めて会う。

家慶の世子としての位置が確立されないうちに、

ペリー来航・ 1853＝16歳： _ペリー来航という一大事のなか、家慶が死去、13代将軍となった家定の後嗣をめぐつて、島津斉彬はじめ改革派の大名や幕臣から、開明的で能力ある将軍候補として推され、保守血統主義派にかつがれた紀州の慶福(家茂)と対立することになる(将軍継嗣問題)。参謀平岡は、「慶喜公御言行私記」なるパンフレットを作成、東照宮神孫すなわち家康直系であることも記して、諸藩に配布、宣伝に努めている。

安政大地震・ 1855＝18歳： 一条忠香の養女美賀子と結婚。参議に任ぜられる。

五ヶ国条約・ 1858＝21歳： この政争は、井伊直弼の登場によって、紀州派が勝利となり、安政の大獄の一環として、

安政の大獄・ 1859＝22歳： _隠居謹慎の処分を受けた。のち、慶喜がまとめた回想録「昔夢会筆記」から、大奥を差配して老中以上の権力者といわれた瀧山が、女癖の悪かった斉昭嫌いだったため、将軍職を引受けたくなかったようである。

桜田門外変・ 1860＝23歳： _父斉昭が死去。井伊直弼が暗殺されて、謹慎解除となり、改革派からの期待はますます高まるが、母が皇族出身だったことから、孝明天皇に配慮して、攘夷を支持する姿勢を示し、“二心殿”と呼ばれる。

生麦事件・・・1862＝25歳： _面会交通も許されると、島津久光に擁されて東下した勅使大原重徳からの要求で、一橋家を再相続したうえで、将軍家茂の後見職になるが、

8月18日政変 1863＝26歳： 倒幕運動で窮地に陥った渋沢栄一が平岡を頼って上洛。初めて参内し、孝明天皇に拝謁。_八月十八日の政変で、朝廷から、攘夷派の公卿が追放されて、情勢が一変、参与を命じられ、

禁門の変・・・1864＝27歳： 渋沢栄一からの申し入れで、謁見し、幕府は終りとの意見を素直に聞いている。*頼りにしていた平岡も死去すると、朝廷から直接に任命されて、禁裏御守衛総督・摂海防禦指揮という最高司令官となり、禁門の変で大活躍、幕府は何とか江戸に連れ戻そうとするうち、

薩摩藩士密航1865＝28歳： 家茂は、辞表の文中で皮肉をこめて後任に慶喜を推薦した。_将軍襲職を要請されるも、なお迷い、徳川宗家は相続するものの、将軍にはならない(現代でいえば、自民党の総総分離)という奇策によって、

薩長同盟・・・1866＝29歳： *家茂の死去後も、京都を離れることができないまま幕政改革を指揮、その手腕には、木戸孝允をして、家康の再来とまで言わしめるほど、倒幕派を畏怖させる一方、長州討伐に出陣を表明しながら、先発隊が敗北すると、休戦に持ち込むなどして、会津藩や幕閣の怒りを買ひ、孤立化したため、ついに、第15代将軍となる。直後に、孝明天皇が死去して、攘夷派に配慮する必要が無くなると、有力諸侯と協議、説得して、兵庫開港の勅許を得、開国への道を一気に飛躍させる。クーデタを計画する薩長の軍事力に対抗すべく、フランスから600万ドルの借款を試み、

大政奉還・・・1867＝30歳： *パリ万博に弟昭武を名代とする使節団を派遣するも失敗に終わったため、政権への関与を前提に、大政奉還という思い切った先手を打つも、後ろ盾にもなっていた孝明天皇が死去して、岩倉具視の力が強くなり、討幕派の王政復古クーデタに至る。大坂城へ退き、

明治維新・・・1868＝31歳： *鳥羽・伏見の戦で敗北の報を聞くと、海路江戸へ戻り、全ての官位を剥奪され、駿府で謹慎生活。田安家の徳川慶頼三男亀之助が、徳川宗家の相続を許され、家達となる。

戊辰戦争終・ 1869＝32歳： 随行させた中島鋏次郎(迎山)から、油絵・写真術を学ぶ。_謹慎免除。夫人も静岡に着き、以後滞在。静岡に写真館を開いた徳田孝吉や、朝敵として幽閉中の松本良順から、写真術を学ぶ。

明治6年政変 1873＝36歳： 維新後10年間に、_油絵を多数描いて、相当の腕前を示すなど、感性にも優れ、

・・・1880＝43歳： 正二位に叙せられ、旧位に復する。側室二人も同居するほど、女好きでもあり、

明治14年政変1881＝44歳： 新体詩抄・・・1882＝45歳：

秩父事件・・・1884＝47歳： 七男(世子慶久)が誕生している。

帝国大学始・ 1886＝49歳： 母吉子の病気見舞いのため、上京。

初の対等条約1888＝51歳： この年、弟昭武と頻繁に手紙をやり取り。従一位叙任。

帝国憲法発布1889＝52歳： _謹慎後、初めて公式に上京し、日光、水戸にも行く。

帝国議会始・ 1890＝53歳： 静岡浅間神社・臨済寺・久能山など、市内を撮影、_写真家のパイオニアの一人にもなり、

足尾鉾毒始・ 1891＝54歳： 母吉子の米寿祝いのため上京。_狩猟、弓道など、多くのものに興味を抱き、

郡司千島探検1893＝56歳： 母吉子が死去して上京。_度々サイクリングを楽しむなど、悠々自適、

日清戦争始・ 1894＝57歳： 妻美賀子が病死。_写真撮影のため、静岡各所に赴き、これまたかなりの腕前、

日清戦争終・ 1895＝58歳： 戸定邸を訪問、製陶を楽しむ。

この前後、_一族の各人の肖像写真撮影も多数。

八幡製鉄始・ 1897＝60歳： _30年ぶりに、東京に帰住し、巢鴨邸に入る。

子規句歌革新1898＝61歳： 華族会館長に就任した家達に従って、参内。かつての幕臣勝海舟を訪問して挨拶。

Bushidou・・・1899＝62歳： 日光へ行く。

ピアノ国産化・ 1900＝63歳： 写真師中島待乳の求めに応じ、{大日本写真協会雑誌}に、作品が掲載される。

田中正造直訴1901＝64歳： 小日向第六天町邸に移る。

教科書疑獄・ 1902＝65歳： 内勅により、家達が相続している徳川公爵家から分家し、_華族に列して、公爵を授けられ、

日比谷公園・ 1903＝66歳： 家達が貴族院議長に選任される(以後30年間に、5選)。

日露戦争終・ 1905＝68歳： 家達が、東京慈恵会会長に就任して、勲一等旭日大綬章を受けた翌年に、

韓国反日暴動1907＝70歳： _勲一等旭日大綬章を受け、

アララビ創刊・ 1908＝71歳： 。

伊藤博文暗殺1909＝72歳： _隠居し、

韓国併合・・・1910＝73歳： 石造塔橋に改造された日本橋の橋標を揮毫。

大逆事件判決1911＝74歳： 肺炎による心臓麻痺で_没した。旭日桐花大綬章。

明治天皇没・ 1912＝75歳： 時代に振り回されずに、自分を確保するという、個人主義を先取りするような生き方であった。

大正政変・・・1913＝76歳：

中公新書「徳川慶喜」、「日本史を変えた人物200人」、「日本史重要人物101」、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、「日本の群像」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、「目でみる日本人物百科」。NHK「英雄の選択」と、静岡市美術館編「家康と慶喜～徳川家と静岡展」により修正追補、